

動物系教育・研究に関する答申

1 9 9 9 年 1 0 月 2 5 日

農学部将来構想委員会

動物系教育・研究に関する専門部会

1999年10月25日

動物系教育・研究に関する専門部会答申

動物系教育・研究に関する専門部会

1. 専門部会委員構成 10名

荒井 啓	生物生産学科	病害虫制御学講座	
坂巻祥孝	生物生産学科	病害虫制御学講座	
萬田正治	生物生産学科	家畜生産学講座	(委員長)
南 雄二	生物資源化学科	生命機能化学講座	
林 国興	生物資源化学科	食品機能化学講座	
曾根晃一	生物環境学科	森林管理学講座	
岡 達三	獣医学科	家畜生理学講座	
岡本嘉六	獣医学科	獣医公衆衛生学講座	
柳田宏一	附属農場	附属農場入来牧場	
出口栄三郎	附属家畜病院		

2. 討議経過

・第1回専門部会(1999年7月14日)

農学部将来構想委員会の第1回動物系教育・研究に関する専門部会が招集され、本専門部会の委員長に萬田正治(生物生産学科家畜生産学講座)が選出された。その後、今後の協議の進め方について諮られ、次の事が確認された。

- ・専門部会の名称を「動物系教育・研究に関する専門部会」とする。
- ・動物系教育・研究をいかにすべきかの理念と領域をまず討議する。
- ・次いで獣医学科問題を含め具体的な問題について討議する。
- ・10月末を目処に将来構想委員会へ答申する。

・第2回専門部会(7月27日)

動物系教育・研究の理念と領域について、岡本、曾根、坂巻および萬田委員の4私案が提起され、討議の結果、萬田委員の私案を軸に再度検討することとなった。

・第3回専門部会(8月19日)

萬田委員より、動物系教育・研究の理念と領域について説明があり、一部修正はあったものの、現時点では本案を前提に論議をすすめることとなった。

次いで動物系教育・研究の具体的な構想の討議の進め方について討議した結果、以下の順序を進めることとなった。

- ・ 鹿児島大学において動物系の新学部の創設が可能かどうかを、全学的視点から探る。
- ・ 宮崎大学の動物系学科・講座との連携を強め、連合大学 1)としての充実を探る。
- ・ 鹿児島大学農学部内での動物系教育・研究の充実を探る。
- ・ 獣医学科の九大統合移転を検討する。その際、鹿児島大学の動物系教育・研究の後退につながらない配慮が必要である。

1)連携大学構想については、国立試験研究所や民間等の研究所と連携する大学院構想はあるが（平成9年度の実施大学院：国立27大学院53研究科、公立1大学院1研究科、私立7大学院11研究科）今のところ学部段階の大学間については制度としてはない。故に大学の学部間の連携は連合大学と呼ぶことにした。

・ 第4回専門部会（8月25日）

まず討議順序・の新学部の創設が可能かどうかについて討議され、岡、岡本、林、柳田、坂巻および萬田の6私案が提起された。その結果、現農学部と水産学部を中心として再編統合した2学部構想案と、現農学部の動物系と水産学部、その他学部の一部を再編統合した1学部構想案の2案が提起された。

・ 第5回専門部会（9月8日）

討議順序・の宮崎大学との連携が可能かどうかについて討議され、岡本、林、岡、曽根、坂巻および萬田の6私案が提起された。その結果、

- ・ 両大学農学部のシャッフルを行い、再編する。
- ・ 獣医系教育にのみ絞り連携する。

の2案に分けられた。

・ 第6回専門部会（9月14日）

討議順序の・は実質的には至難なことなので、討議は殆どなされず、討議順序の・の九大統合移転構想について討議した。獣医学科の西尾委員（代理）より、資料「獣医学科構想に関する資料集」に基づいて説明のあった後、種々質疑がなされた。その結果、次回は獣医学科が九大へ移転することの見通し、ならびに移転した場合の鹿大農学部の動物系教育・研究のデメリットについて討議することとなった。

・ 第7回専門部会（9月20日）

獣医学科の九大統合移転の見通しについて討議され、西日本の4大学（鳥取、山口、宮崎、鹿児島大学）では、九大総長との懇談会が開かれるなど、統合に向けて前向きに進んでいると報告された。次いで獣医学科の九大統合移転に伴う農学部の動物系教育のデメリットについて、柳田および萬田より報告があり、種々質疑された。

以上の第7回におよぶ専門部会の討議を踏まえて、将来構想委員会に答申することとなった。

・ 第8回専門部会（10月25日）

専門部会としての農学部将来構想委員会への答申をまとめた。

答 申

1．論議された基本的視点

- ・動物系教育・研究の理念と領域をどのように考えるか。
- ・農学部を取り巻く社会情勢および就職環境の変化をどうとらえるか。
- ・農学部における動物系教育は南九州地域ならびに国際社会においてどのような役割を果たすのか。
- ・周辺科学（生物工学、情報処理、生命科学、環境科学等）の進歩をどうとらえ、動物系教育の中に組み入れていくのか。
- ・動物系教育の組織・運営体制はどうあればよいのか。

2．動物系教育・研究の理念

動物系教育・研究とは、人間と動物の関わりについての教育・研究である。

人間に関わる動物を類型すれば、表1の通りである。これを集約すれば、第一に衣食住の資源としての関係であり、水産業、獣医畜産業ならびに狩猟がこれに相当する。第二に環境・生態系としての関係であり、これには人間と動物が敵対する関係と共生する関係の、相反する二面性を持っている。第三に伴侶動物としての関係であり、ペット、娯楽、介護、介在療法等がこれに相当する。第四に健康・医療用に用いられる実験動物としての関係である。

次に動物系教育・研究は、物質循環による持続的生産に基づいて行われるものである。すなわち、陸上では大気、土壌、植物、動物、微生物が、水圏では水、ベントス、植物、動物、微生物が互いに影響を与えつつ、複雑な系を形成している。さらに、陸上生態系と水圏生態系は互いに独立したものではなく、相互に依存しあって地球生態系を構成している。物質はそれぞれの生態系の構成要素間のみならず、生態系間を絶えず循環し続けている。その循環過程の中で動物の生み出す様々な恩恵を得て、人間は生活を成り立たせている。

3．動物系教育・研究の領域

上記の理念と今日の社会的情勢に基づけば、これからの動物系教育・研究の領域の柱としては、以下の4つが考えられる。

- ・衣食住資源の生産と利用としての動物系教育
- ・環境・生態系としての動物系教育
- ・生命科学としての動物系教育

- ・教育・文化としての動物系教育

南九州における第一次産業の重要性および自然的特性を考慮しながら、以上の4つの基本的領域の中で、鹿児島大学としての教育・研究の特徴をどのように発揮するかが今後の検討課題となる。

4．動物系教育・研究組織の基本構想

- ・基本視点

動物系教育・研究組織の基本構想を検討するための基本的視点は次の3つである。

- ・総合大学としての鹿児島大学の総合性を高め、動物系教育・研究の充実を図る。
- ・南九州地域ならびに国際社会の要請に応える（グロ・カルに）
- ・可能な限り鹿児島大学における動物系教育と研究の充実を図る。

- ・討議の順序

討議の順序としてはまず、

- ・鹿児島大学農学部内での動物系教育・研究の充実が図れるかを検討する。

それが不可能であれば、

- ・鹿児島大学において動物系の新学部の創設が可能かどうかを、全学的視点から探る。

次いで、

- ・宮崎大学の動物系学科・講座との連携を強め、連合大学としての充実が可能かどうかを検討する。

さらに、

- ・獣医学科の九大統合移転を検討する。その際、鹿児島大学の動物系教育・研究の後退につながらない配慮が必要である。

5．鹿児島大学農学部内での充実構想

上述の動物系教育・研究の理念と領域を達成するには、現農学部内での講座数および教官数等の規模では難しいと判断された。

6．新学部構想案

新学部構想案については6名の委員から、大別すれば以下のような二つの案が提起された。

- ・第1案（農学部と水産学部のシャッフルによる新2学部構想）

岡本案（資料1）

- ・獣医学部

現獣医学科

9講座

現生物生産学科家畜生産学 3 講座

現生物資源化学科食品機能化学 3 講座

現水産学部 7 講座

・農水産環境学部

現農学部の植物系、水産学部の海洋資源保全等の部門

岡案（資料 2）

・獣医学部

現獣医学科 9 講座

現生物生産学科家畜生産学 3 講座

現生物資源化学科食品機能化学 3 講座

現生物環境学科森林管理学 1 講座

現水産学部など 2 講座

・動物環境資源学部

現農学部と水産学部の残りの講座

・第 2 案（農学部動物系講座、水産学部と法文学部の一部による 1 新学部構想）

林案（資料 3）

動物資源科学・獣医学部

現獣医学科 9 講座

現生物生産学科家畜生産学 3 講座

現生物資源化学科食品機能化学 3 講座

その他（兼任による参加）

柳田案（資料 4）

獣医畜産学部

現獣医学科 9 講座

現生物生産学科家畜生産学 3 講座

現生物資源化学科食品機能化学 3 講座

水産学部 4 講座

坂巻案（資料 5）

動物科学・獣医学部

現獣医学科 9 講座

現生物生産学科家畜生産学 3 講座

現生物資源化学科食品機能化学 2 講座

附属施設等

萬田案（資料 6）

獣医畜産学部

現獣医学科 9 講座

現生物生産学科家畜生産学	3 講座
現生物資源化学科食品機能化学	3 講座
現生物環境学科森林管理学	1 講座
法文学部その他	2 講座

なお新学部構想の問題点は

- ・新学部60名の学生全員に獣医師免許を与えたとすれば、その定員増が認められるかどうか。
- ・大学院博士課程をどうするか。
- ・他大学の獣医系との調整が可能か。特に鳥取大学、山口大学、宮崎大学との。
- ・もちろん鹿児島大学の全学的協力・支援が得られるか。などが挙げられる。

7. 宮崎大学との連合大学構想

・第1案(シャッフル案)

両大学の連合というよりも、両農学部のシャッフルによる再編統合案である。

林案(資料7)

鹿児島大学農・獣医学部(宮大獣医学科は鹿大へ)

宮崎大学農学部(鹿大の家畜生産学、食品機能化学講座は宮大へ)

その逆も考えられる。

岡案(資料8)

鹿児島大学農学部(獣医学科、家畜生産学講座、食品機能化学講座)

宮崎大学農学部(動物生産学科、獣医学科)

獣医・生物生産学部(鹿大か宮大に)

岡本案(資料9)

宮崎大学に獣医学部を新設(鹿大の獣医学科、家畜生産学講座、食品機能化学講座)

鹿児島大学農学部(宮大の獣医学科以外の講座)

坂巻案(資料10)

南九州農獣医大学を最終目標とする。

当面は 宮崎大学農・林学部

鹿児島大学獣医畜産学部

その逆も考えれる。

・第2案(連合大学)

萬田案(資料11)

- ・定年教官との関連において鹿大と宮大獣医学科関連講座の重複を徐々に解消し、近

未来には両大学合わせて一獣医学部に相当する講座編成を行う。

- ・この過程で両大学教官・職員の相互異動もありうる。
- ・単位互換制をフルに活用し、集中講義・実験実習の充実を図る。
- ・スク－ルバス等、両大学の公用車の活用を図り、これに要する諸経費の充実が必要となる。
- ・この連合大学構想を推進するため、両大学間に「獣医系教育連合大学構想委員会」を設置する。

8．九大統合移転構想

西日本四大学再編整備検討委員会による九大統合移転計画の趣旨と教育組織案は資料12

の通りである。

これによる当大学農学部の動物系教育・研究のデメリットは以下の通りである。

- ・講義、実験実習上のデメリット
全開講科目の1～2割に影響
- ・実験用動物の診療上のデメリット
- ・共同研究上のデメリット

一方、全国でも有数の畜産地帯である南九州地域にとって、獣医師の養成および研究機関の消失（特に産業動物）は、大きな痛手となり、南九州農業・畜産業への影響は大きいものがある。

9．おわりに

本専門部会においては8回の会合を重ねて約4ヶ月間にわたり、討議を積み重ねてきたが、本問題の解決には、植物系教育・研究との関連もあり、また農学部にとどまらず、鹿児島大学の全学的な支援と協力が必要であり、さらには今日の独立行政法人化の動きも念頭に置けば、本専門部会の権限をはるかに超える課題といえよう。

したがって本専門部会としては一定の方向を結論づけるには至っていない。今後、動物系教育・研究の充実に向けて、いかなる基本方向をめざすかは農学部将来構想委員会ならびに農学部教授会の判断に委ねたい。